

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

## 今回のテーマ

### 「年度当初に生徒の教科学習への意欲を高めるために どのような声掛けや指導を行っていますか」

#### ▶▶ 英語

1年生には「中学生のときに英語が苦手でも、ここから頑張れば何も問題ない。学校の授業を中心に取り組みれば大丈夫」と伝えている。

3年生の最初の授業でオリエンテーションを行う。シラバスを使い、予習・授業・復習について丁寧に説明を行っている。また、この授業についてくれば、どういう力が身につくか、そのためには生徒にはどういう努力が要求されるか具体的に説明。教員は、生徒をどのレベルまで導きたいのか、先輩たちの成功例を紹介しながら、熱く語っている。

本校の職業学科は卒業後に就職する生徒が多いので、英語に関しては就職後必要になる新聞記事・週刊誌の記事・インターネットの記事などを配布して読ませたり、海外で働いた経験のある卒業生に来てもらい話を聞かせたりしています。モチベーションがないと英語の学習に取り組まないで、上記のことを機会あるごとに活用しています。

#### ▶▶ 国語

1年生の国語では、大学入試センター試験の問題を見せながら、3年間を見据えて、現代文、古典の授業を通じて、どのような学力をどのように身につけていかなければならないか、具体的にコメントしている。

大学入試センター試験で古文、漢文を受験する生徒が多いため、3年生の年度当初に、センター試験ではどういう力が必要か、何を勉強すべきか、どういう進捗・内容で1年間進めていくかを、シラバスを渡して説明する。

#### ▶▶ 地理歴史

3年生までの大まかな授業計画を口頭で生徒に伝える。多くの生徒が大学入試センター試験を一番の目標としているので、3年生の1月までに、どのようなことをどれだけしていくのか、そして目標点数などを話し、一体感を作っていく。とにかくまずは「苦手・嫌い」という意識を持たせないように心がけている。

#### ▶▶ 数学

年度当初には、必ず予習をして、何が分からないのかははっきりさせることの大切さを指導している。また、暗記型で乗り切ってきた生徒が多くなっている中で、自分で考えることの大切さを強く指導している。特に1年生は数学をただ計算することと考えている生徒が多いので、文章等による説明、論理的な思考による論理的説明こそが数学であると、パラダイム転換を強く要請し指導を行っている。また、それには根気が必要であることも合わせて述べている。

1年生には「最初は中学校の復習なので中学生のときに数学が苦手だった生徒もついて行ける。そのためには勉強の習慣をつけることが大切。毎日コツコツと続ければ力がついてくるのはクラブ活動と同じ。どうせしなければならぬことなのだから、前向きに取り組もう」と伝えています。

1・2年生には、数学という教科の特性もあり問題集を1冊終わらせることを目標に、1年間その問題集を使いながら授業を進めます。しっかりとした問題集を隅から隅まで完全にやりきることは、生徒にとって自信にもなり、何を予習、復習すればよいか明確な目標にもなるようです。これを1冊完全にやりきろうという宣言を年度当初に行います。

#### ▶▶ 理科

2年生(物理I)は、ちょっとしたつまづきがきっかけで学習意欲が低下してしまうので、テストの結果を見ながら一人ずつ学習のアドバイスを伝える。3年生(物理II)は、授業についてこれなくなったり、志望大学の変更で受験科目でなくなったりする生徒が出てくる時期なので、授業の大切さを再度確認させる。

2年生では、初めて物理を学習するのでベクトルや指数などの数学から入ります。どのようなところに数学が使われているのか、物理現象と日常生活など自然と授業に入れる雰囲気を作っています。3年生には春休み中に履修範囲の内容を印刷した問題プリントを宿題として配布。ここから4月当初の実力テストを大筋出題する。ただ問題集のここからここまでという指導ではなく、テスト形式に解けるため意欲的に取り組めると考えています。